



フィグ・ヤーパン通信

第 24 号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.24

発行日 2005 年 10 月 9 日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

リッカウアー夫妻が来日しました

去る 10 月 2 日 (日) に、「フィグ・ヤーパン講演会 2005」が開催されました。今回の講演会は、年内にフィグ・ヤーパンから出版予定の『瞑想入門』に関連したテーマで行われました。このため FIGU スイスの基幹会員で、瞑想に関する小冊子も執筆されている、シュテファン・リッカウアー (Stephan Rickauer)、シモーネ・リッカウアー (Simone Rickauer) 夫妻を再び招待することになりました。リッカウアー夫妻の来日は、前回の招待講演以来、2 年ぶりになります。お二人とも休暇の残りが少ないところ、無理を押して私たちの招待に快く応じていただきました。講演会の終了後、今回の講演会のテーマである瞑想について、お二人に伺いました。

リッカウアー夫妻へのインタビュー

Q. 今回の講演会は瞑想をテーマにして行われました。お二人がそれぞれの講演テーマを選択された背景をお話ください。

シモーネ フィグ・ヤーパンによって、ビリー著『瞑想入門』の翻訳出版の準備が進められています。そこで私は、瞑想の起源と成り立ちを正しく知っていただけるような部分をこの本の内容から選んで、今回の講演テーマにしました。

シュテファン 私も、日本でもうすぐ出版される予



定の『瞑想入門』について、関心を高めることができると思いました。また、私の経験も踏まえて、注意力集中によって人生の質を高めることができることを、日本の皆さんにもお伝えしたいと思って、テーマを選びました。

Q. 講演会では、サティパターナ瞑想の起源について、大変興味深いお話を伺いました。これはどのようにして明らかにされたのでしょうか？

シモーネ 私たちのグループのハンス・ランツェンドルフアーが、ビリーのこれまでの足取りや瞑想の起源に関して、詳しい調査を実施しました。現在はその結果を取りまとめているところで、講演会でお話した内容は、彼の最新の原稿をもとにしたものです。サティパターナ瞑想の起源を明らかにするのは、

今回の日本の講演会が初めてです。なお、ハンスによる記事は、FIGUの季刊誌『水瓶座時代の声』12月号で公表される予定です。

Q. 日本では、瞑想は禅や仏教を通じて古くから伝えられてきましたが、そのことをご存知でしょうか？

シュテファン はい、知っています。そのような背景があるので、日本では瞑想の講演を行いやすかったのではないかと思います。欧米では、瞑想の講演会を行うと、とかく新興宗教と関係付けられてしまい、またそうした関心から参加してくる方が多い傾向があります。これに対して、日本では瞑想が真新しいものではないため、より自然な形で受け入れられやすいのではないのでしょうか。また、禅や仏教が真理に近い内容を伝えてきたことも事実です。ちなみに、ヨーロッパでは今、仏教や禅が人気を集めていて、そのような要素を取り入れたライフスタイルが、「クールでかっこいい」と言われています。



Q. 瞑想は今日、正しく理解されていると思いますか？

シュテファン いいえ、正しく理解されていないと思います。単にリラックス

するための手法だったり、あるいは、宗教活動と見なされることが多いのではないのでしょうか。真実には、身体と心と感情と霊に作用して、それらをコントロールするための王道が、瞑想なのです。

Q. 瞑想によって、例えばどのような形で生活の質を高める効果が現れてくるのでしょうか？

シュテファン まずは、世俗的なことに執着しなくなって、それらから離れることができるようになります。例えば、私たちは以前は日に何十本とタバコを吸っていましたが、そうした生活から離れることができました。生活態度が変わってくるとともに、良いことや悪いことなどに執着して、極端にどちらかそればかりを追い求めるということがなくなりました。また、退屈でやりたくないと思うようなことに対しても、注意力を落とすことなく取り組むことができるようになりました。

シモーネ 凝り固まらないで、物事を中立的に見ることができるようになりました。このため、以前よりも現状をありのままに受け入れることができるようになったと思います。

Q. お二人は生活の中で、瞑想をどのように実践されていますか？

シモーネ 私たち二人の中でも個人差があります

〈関連書籍のご案内〉

『瞑想入門』の手引き シュテファン A. リッカウアー著



ドイツ語原文対訳
A5判
45ページ
70グラム
定価 300円(税込)

なぜ瞑想するのか

瞑想でないものとは

- a) 純粋な弛緩運動
- b) 祭祀的行為
- c) 超自然的な能力を身につけるための速成コース
- d) 幻覚的陶酔と可視化
- e) 退屈で単調
- f) 耐え難い苦痛
- g) 権力主義の「師」一服従

瞑想とは何であるか

- a) 実践
- b) 中立性
- c) 現在性
- d) 集中と注意

e) 人格陶冶

- f) 規律
- g) 人生
- h) 静けさ

瞑想に対する偏見

- a) 瞑想は現実からの逃避である
- b) 瞑想すると世間離れする
- c) 瞑想は修得できない
- d) 瞑想は気分を高揚させる
- e) 瞑想は興奮剤で補助することができる
- f) 瞑想は神に至る道を示す
- g) 瞑想は利己主義である
- h) 瞑想は修道院のものにすぎない
- i) 瞑想は無関心にする

が、夫婦なので機会を合わせて瞑想をしています。まず、毎朝起きてから20分、呼吸に集中する瞑想をしています。それ以外には、センターに行くと月に2回の瞑想をしています。これ以外にも、センターで個人的に瞑想をする機会を作っています。

シュテファン 瞑想のやり方には個人差があると思います。それぞれのペースで瞑想を行うことが大切です。例えば、列を作ってバスを待っているときにも瞑想をすることができます。

Q. 最後に、日本の読者に向けてのメッセージ、瞑想についてのアドバイスがありましたらお願いします。

シュテファン まずは、再び日本にご招待いただいたことにお礼を申し上げます。昨日の講演会は、私たちにとっても有意義なものになりました。講演の仕事というよりも、良い時間を過ごすことができたと思います。ビリーにもさっそく報告の電話を入れたところ、フィグ・ヤーパンやボランティアでお手

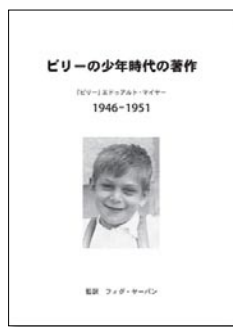
伝いいただいたすべての皆さんに対して、お礼のメッセージを伝えてくださいということでした。

瞑想については、各人が小さい一歩からでも進化しながら実践して役立てていただくことを希望します。その際には、瞑想のグルや教師は必要ありませんし、またそうした類のものに頼ることなく、ぜひご自分の努力によって成し遂げていただければと思います。

シモーネ 一歩ずつ、たとえ5分からでも瞑想を始めてみてください。その際には、強制されていると感じるようなことがなく、自分の意思で行っているという意識が明確であるべきです。多くを求めないように、あまり無理をしないで少しずつ始めることが大切です。



新刊 ビリーの少年時代の著作



ドイツ語原文対訳
A5判
57ページ

本書には、ビリーが9歳から14歳の少年時代に記した、「好意」「関係」「平静さの価値」「富と節度」「進歩」「謙虚、自尊、他尊」「想念」「人間の性質」「FIGUの原則」の9編の作品が収められています。いずれの著作も、深く思慮深い内容で、これらを少年時代に記したビリーの非凡な才能の一端を垣間見せてくれます。

A5判ドイツ語原文対訳でご覧いただける小冊子として発行しています。

平静さの価値

昔から真の賢者の態度は「何も持っていないが、すべて所有している」という言葉で言い表される。この場合、「何も持っていない」とは、不必要な物質的なものは放棄し、この意味でまさに必要なものにだけに取り組むことを意味している。「すべて所有している」ということに関しては、すべての真の知識、英知、真の愛と真の平和、真の調和と自由を、創造の真理と正義と法則の知見および遵守において追求し、我がものにするとことを意味している。想念と感情と感覚が物質的な被造物に執着せず、物質的なものの束縛から解放されてこれを捨て去り、霊的なものや意識的なものにそれ相応の場所を与えることのできる者だけが、本当に自由であり、平静でもいられるのである。平静さは非常に重要な意味を持っている。なぜなら平静さは……

49 項目の質問と回答

— 生命と人間存在の全般に関する 49 の質問に回答するための道しるべ —

13. 再生（転生）はありますか？

OM

Kanon 14, Verse 6, 7 und 13-15

地球の此岸には粗大な質料物質の生命と、それに伴う学習期間と進化がある。しかし彼岸領域では霊的なものの生命と、それに伴う霊形態の進化がある。つまり彼岸領域では、霊形態が新しい人間の肉体の中で再び生きるための準備が行われるのである。霊形態にとって彼岸領域では再び生きるための進化と準備が続き、そうして新たに物質的な人間の肉体に、屈託なく新鮮に、もう一度地球上で生まれる。人間は地球上の此岸で生き、死んで彼岸に赴く。こうして人間は絶えず再生し、進化する。つまり人間は生き、死に、新しい肉体に再生し、そしてこのような生成と消滅は、創造の微小な一部である人間の霊形態がさらに進化して物質的な人間の肉体を必要としなくなる時が始まるまで繰り返されるのである。

14. 動物も進化（発達）しますか？

Semjase-Block 4

54. Kontakt, Satz 55-57 (Semjase und Billy)

ビリー：よろしい、ではさらに動物の霊形態はどうなっているか話してくれないか。これらも霊の進化に組み入れられているのだろうか。

セミヤーゼ：もちろんです。でも動物の霊形態は純粋な自然進化の特定の秩序に限られています。

ビリー：つまり動物は、人間の場合に見られるような通常の意味の霊進化とは関わりないということかい。

セミヤーゼ：その通りです。なぜなら動物の霊進化は霊の完成に寄与することはなく、与えられた秩序の中で自然進化に寄与するだけだからです。

ビリー：つまり言い換えると、動物形態は霊的な形態においてはある最小限の価値には発達するが、本来の完成を目指す進化ではなく、おそらく本能的知性などと呼べるような自然霊の発達に組み込まれているということだね。

セミヤーゼ：その言い方でほぼ当たっています。

15. 瞑想とは本当は何ですか？ 日常生活で何の役に立つのですか？

Einfuehrung in die Meditation

Seite 127, Satz 1-4 und Seiten 228/229

さて、死後も魂 (Seele) は生き続けるというのは、カルト宗教に負った全くのナンセンスである。肉体の死と共に魂も死ぬ。なぜなら魂は肉体の純然たる半物理的因子であり、したがって肉体そのものと同様に移ろいゆくものだからである。

人間とその肉体の死後も生き続けて彼岸領域に入るものは、ただ創造の部分としての霊 (Geist) しかなく、これは物理的肉体がそもそも生き得るために必要なものである。この霊は不断の進化に組み入れられており、彼岸領域で生き続けて、ある時間の後に再び新しい物理的肉体に転生する。

16. なぜ地球は人口過剰なのですか？ (地球人の数は 1840 年から 1993 年までに 14 億から 59 億に増加した！)

Arahat Athersata

Kapitel 3, Satz 6-12

人間の種の保存は、地球の宗教の邪説が明言するように、単なる繁殖の決まり文句で表されるものではない。種の保存とは、自然法則を遵守することである。つまりその遵守とは、神聖で、見通しがきき、統制的なものである。単なる繁殖の決まり文句は、神聖ではなく、見通しもきかなければ統制的でもない。なぜならそれはあらゆる自然法則に反して無意味な規模の繁殖を生み出すからである。地球人が単なる繁殖の決まり文句に従い、創造と自然のすべての法則をないがしろにしているということは、少しでも霊的な発達を歩んでいる者ならば誰でも認識できる。人類は節度も節制もなく増え続け、統制不能の低俗な形で子孫を生み出している。君たちの地球は 5 億の人間の生命形態を支え養うことが

できるが、地球人は35億もの人間を生み、わずか数百年の間に、何百万という人間が正常でない死に方をしなければならぬほどひどい人口過剰を招いた。地球人の無分別と宗教の邪説のために人類は際限なく増え続け、それまでは少数の人間に限られ食いとめることのできた諸々の問題がとんでもない規模で広がって統制不能となった。種の保存の法則を破りないがしろにしたため、人類はわずか数百年の間に人口過剰に陥り、それとともに困苦や変節などあらゆる問題も増大するのが避けられなかった。

17. 「神」、「悪魔」、「地獄」は存在しますか？

Psyche

Seiten 52 / 53

神 (Gott) という言葉は、異民族の言語のやはり非常に古い概念にすぎないが、この民族の存在も言語も 1973 から 1994 年に至るまで確実に証明することはできなかった。しかし絶対に確実なのは（たとえ神学、その他の科学が否認しようとも）、神という言葉はこの太古の未知の言語に由来するものであり、創造とはいささかも関係ないということである。神という言葉はおよそ考えられる太古において、霊的そして意識的な力およびそこから生まれた能力により、王や皇帝にもかなわなかった物事を意のままにして成就できた人間を表す名称として用いられた。したがってこれらの人間はその能力の故に神または女神と呼ばれたが、それはほかならぬ（霊的そして意識的な面）「皇帝や王の上に立つ者」を意味した... この目的のために知謀にたけた者たちは、古代ケルト人の歴史を利用した。彼らは太古にある一人の超人、すなわち神と呼ばれた者たちの一人を狩猟の神として崇拝した。なぜならば、彼はその驚くべき霊的そして意識的な力を民衆の狩が成功することに用いたからである。太古の伝承などから立証されるように、^{とうがい}頭蓋に二つの角状の突起を持っていたこの神は「トイベル」と呼ばれていた。

... 数百年、数千年の間に「トイベル」という名前は数え切れないほど変わり、最後にそこから「トイフェル」（悪魔）という名前が生まれた。初期の宗教が取り上げたこの名前は、角の生えている神と呼ばれた者への記憶から、角の生えていない善と愛の

神に対して悪の対抗物、すなわち第二の神として加えられたのである。こうして善と悪、すなわち天国と地獄が生まれた。

Leben und Tod

Seite 1

地球の人間よ。君がどこか天国や地獄に行くというようなことは決して可能ではなかったし、これからも絶対に不可能だろう。君は人間として自分で天国や地獄を用意するのである。つまりもし君が天国に行きたいと欲するならば、自分自身で天国を用意しなければならないのだ。

18. イマヌエル（別名イエス・キリスト）は誰だったのですか？ 彼は生存していたのですか？

Semjase-Block 1

8. Kontakt, Satz 202-208 (Semjase)

イマヌエル自身はただの人間であり、他の人間とまったく変わるところはありません。そのことは、私よりよくご存知のはずです。彼はただ膨大な知識を身につけていたにすぎません。象徴でも偶像でも他のどんなものでもありません。彼は確かに教師ではありました。つまり霊と意識に関する知識や英知を人々に伝える預言者でした。でもそれ以上の何者でもなかったのです。いかなる生命形態も決して偶像化したり、ましてや崇拝したりしてはならないのです。人間はそれをよくやりますけれど。私たちが二千年にわたって人目につかない場所に隠されてきた『タルムード・イマヌエル』を発見させた理由はただ一つ、真理の時が到来したからなのです。イマヌエルの教えは彼自身の教えではなく、彼自身もまず学び、認識し、受け入れなければならなかった創造とその法則の教えなのです。

19. なぜ「救済者」という呼び名は一部しか正しくないのですか？

Arahat Athersata

Kapitel 3, Satz 218-220

当時イマヌエルと呼ばれた人間の生命形態は、創造の

法則と掟に従って行動し、それらを冷厳な秩序において遵守した。彼はごく狭い範囲でだけ霊の教えを告げたが、彼の弟子たちはそれを同じ形で地球のあらゆる方向に広めて、人々に告げ知らせ、創造へと戻る道を示すべきだった。だが彼らは教えを誤って理解し、邪説と混乱を告げたのである。

Talmud Immanuel

Das 4. Kapitel, Immanuel's Arkanum, Vers 42-45

イマヌエルよ、彼らは君をも神として、またその一人子として罵倒し、そしてまた君を秘密に満ちた創造と同列に置くであろう。この誤まった教えを意に介してはならない。人類の子孫が真理を認識できるようになるまで数千年かかるだろうからだ。君のために多くの人間の血が、すなわち君の血とともに数え切れない世代の血が流されるだろう。そうしたことにも関わらず、君は英知の王としての、天孫ガブリエルの息子としてのミッションを果たすがいい。

Das 35. Kapitel, Kulte um Immanuel, Vers 37-40

異類のカルトを持った人間たちがやってきて、自分たちの間で私を神格化し、民衆の信仰心をいっそうかきたて、それによって民衆を奴隷化し搾取しやすくするであろう。私の名前前で多くのカルトが作り出されるであろう。そうする理由は、人間がその意識において奴隷化されて自由を奪われ、それによって民衆と国土と金銭を支配する強大な権力をカルトに与えるためにすぎない。君たちに言うておくが、いかなるカルトも正当ではなく、創造を最高のものと認識しないのみならず、創造の法則と掟に従って生きることもないであろう。いかなるカルトも、真の教えや知識や真理を説くことはないであろう。

20. 心とは何ですか。それは何からできているのですか？

Leben und Tod

Seite 62

地球人の間に、魂は死後も生き続けるなどという邪説が起こったが、これはいつの時代にもカルト宗教をかつぐ連中が、無責任にも真の事情を知らずに人間において感情中枢をなす因子、すなわち心 (Psyche) を不死なるものと呼んだことに起因する。

心は人間の感情中枢と思考世界から形成されている。実際、人間が心理の認識要件に関して無知、無教養であったならば、心を観察したときに、それが半有機的・物質的なものではなく、霊的なものであるかのような混乱した印象が生まれるが、これは完全に真実と相反している。つまり数千年前に人間を非常に不正確に観察した結果、その当時、そして今日なお一部で誤まって魂も心も不死で、純粋に霊的な本性のものであると言われたのである。しかし真実は、この魂 (心) も肉体そのものと全く同じように死すべきものであり、肉体そのものが死によって生命から引き離されると、たちまち息絶えるのである。

21. 魔術は存在しますか。魔術とは本当は何ですか？

Geisteslehre

Lehrbrief Nr. 36, Die Zahl 15

15 という数字は何よりも魔術の世界の価値を表わしている。この数字は優れて超自然的・超感性的な意味を持っているが、一般にはいわゆる高度な神秘学を担うものではない。15 という数に属する人間は、しばしば目標を達成するために魔術を用いることができるが、この場合、魔術という言葉 を正しく解釈しなければならない。すなわちそれは力を発揮することを意味している。

15 の特性の人間は、15 という数を 4 または 8 と関連づけるときには非常に注意深くなければならない。なぜならば、それらはかなり悪いことの象徴となり得るからである。15 という数に属する人間は非常に速くその力を、いわゆる「黒魔術」に使うことができる。それは、自分の持てるすべての力を否定的な形で作用させることを意味する。15 の人間は、たいてい非常に弁がたち、音楽や演劇の才能があり、精力的で、芸術的でもあるので、「磁石」のように引き付ける強い力を否定的な形で利用することなどわけではない。15 の人間はまさにそのことを避けるように用心すべきである。

Wissenswertes

Nr. 3, Die sieben Rechte der Magie

個々の領域について概略を述べる前に、魔術とい

う概念の定義を試みよう。我々は「意志的に意図した現象が空間と時間を度外視して起きる」とき、魔術が行われたと言う。それゆえ、魔術を何か物理的な意味での「放射」によって説明しようとしてもできない。なぜなら物理的現象はすべて我々が感性的に知覚できる世界と結びついており、この世界は空

間と時間（あるいは現代物理学の見解では四次元の時空連続体）の中で表わされるからである。さらに魔術の作用は何らかの意図、すなわち行為する知的存在を前提としており、自発的な自然現象とは比較できない。

（出典：『49 項目の質問と回答』）

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ 講演会が開催されました □

2005年10月2日午後1時から、東京の日本青年館国際ホールにおいて、FIGUスイス基幹会員のシュテファン・リッカウアーとシモーネ・リッカウアー夫妻による、2年ぶり2回目の日本における講演会が開催されました。通訳は、前回に引き続き、スイス在住のシュトラッサー・節子氏が行いました。今回は全国から60名を超える熱心な読者の方々にご参加いただきました。

まず初めに、シモーネ・リッカウアー氏から、サティパターナ瞑想に関する起源と歴史について興味深い事実が明かされました。またこれに関連して、少年期のビリー、スファート、アスケット、インドの僧侶、牧師との関係について解説が加えられました。

次に、シュテファン・リッカウアー氏による講演が行われました。「注意力集中への道」と題した講演は、多くの参加者を巻き込んで、知的興奮を呼び覚ましました。それらは瞑想とは無関係の錯覚、思い違いなどについても改めて再認識させるものでした。また日常生活の中での注意力集中による観察の仕方と利用法など、価値ある内容が多く含まれていました。

講演会の雰囲気覚めやらぬうちに、続いて懇親会

が開催されました。多くの参加者が集まり、会場のレストランは一杯になりました。軽い食事と飲み物を交え、打ち解けた雰囲気の中、久しぶりに集う読者との会話が続きました。今回もまた、リッカウアー夫妻には、時間いっぱい、参加者からの尽きることのない質問に精力的に答えていただきました。

フィグ・ヤーパンでは、講演会を収録したビデオの販売を計画しています。次号のフィグ・ヤーパン通信にてご案内する予定ですので、どうぞご期待ください。

□ これから出る本 □

FIGUスイスによる『瞑想入門』の原文校正作業が完了しました。現在、変更箇所の確認と再翻訳を実施するところです。このため、出版にはしばらくお時間をいただきますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

この他、プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録シリーズ第3巻や、ビリーと高次の霊水準とのコンタクト記録を記した『アラハト・アテルザータ』の翻訳校正作業が順調に進んでいます。できる限り早く書籍をお届けすることができるよう、努力する所存です。



出版物のご案内

- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)
価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)
価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)
- わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)
価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)
- 宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト (徳間書店刊)
価格 2,940 円 (税込 送料別 550 グラム)
- 日本語版 水瓶座時代の声 価格各 1,000 円(税込)
83/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)
83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)
87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)
91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)
- 第 235 回会見
価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)
- 日本語版 FIGU 公報
6 号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)
30 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)
38 号 価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)
- 精神と物質の生命
価格 500 円 (税込 送料別 55 グラム)
- **ビリーの少年時代の著作** **新刊!!**
価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)
- 預言者エレミヤとエリヤの予告
価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)
- エノクの預言
価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)
- 『瞑想入門』の手引き
価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)
- 地球に平和あれ
価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)
- 昨日、今日、明日の心配に関する考察
価格 100 円 (税込 送料別 15 グラム)
- 生と死は互いに切り離しがたく結びついている
価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)
- FIGU の原則あるいは人間の原則
価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)
- プレヤール人が地球人に望むこと
価格 200 円 (税込 送料別 30 グラム)

※このページに掲載した以外の書籍につきましては、ホームページ等をご覧いただくか、フィグ・ヤーパンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※ 15,000 円以上あるいは 3000 グラムを超える

場合の郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 24 号 (無料)

発行日 2005 年 10 月 9 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 0426 (35) 3741

FAX 0426 (37) 1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail jp@figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2005 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.